

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 書 燈

2010年9月
No.134



大谷大学同窓会

大谷大学と私

「大悲心を学ぶ」

臼井元成先生にインタビュー



本学において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました臼井元成先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

―まず先生が大谷大学で学び始めた頃のことをお聞かせください。

私の家庭の事情からお話ししますと、私が四歳の時に母が病死し、十歳の時に父が戦死しました。また私が旧制中学校の生徒であった時には、住職をしていた祖父がなくなりました。とても京都まで勉学に赴くような家庭状況ではなかったのですが、ご門徒の方が「京都まで行かないとだめだよ」と勧めてくださって、大谷大学に学びに行くことができました。

た。昭和二十六（一九五二）年のことです。

最初は京都のお寺に下宿させていただいて、法務を手伝いながら大学で勉強をはじめました。しかし、お寺の務めと勉強との両立が難しく、文部省（当時）の奨学金を頂けることになってからは民家に下宿し、自炊しながら大学に通ったことが思い出されます。

当時の大学には体育館がなく、その代わりに校舎を改築したような非常に粗末な「雨天体操場」というのがあり、そこで素うどんが食べられました。一杯十円です。戦後間もない頃ですから配給制度がまだ残っていて、外食券を田舎でもらってきては食堂で値引きをしてもらったりもしました。そのような大変な時代と状況の中で学生生活を始めました。

―先生が真宗学を専門に学んでいかれるにあたって、どのような出会いがあったのでしょうか。

二回生の時、「真宗学」の授業で稲葉秀賢先生に出会いました。先生

は「出会い」についてお話しになりました。「姿かたちを見ているだけが真の出会いではない。真の出会いとは、まことのところを知るといふことだ」とおっしゃいまして、それは經典で言うならば「仏心というは大慈悲これなり」（『観無量寿経』第九真身観）とあるような、まことのところとの出会いであると教わりました。この話が強く心に残りました。

三回生になって稲葉先生のゼミに入ると、ちょうど『観無量寿経』の第九真身観からゼミが始まりまして、再びその経言に出会って今は亡き父母との真の出会いがここにあるうなと深く感動したことを今も思い出します。

そして「仏心」を学ぶことが私のテーマになりました。先生に相談したら、それなら善導教学をしっかりと学びなさいと言われました。そして善導の「三心釈」をそらんじるぐらいにその文言を勉強しなさいと言われて、正直にノート一冊にそれを書き写して口ずさんで問題を考えたということも思い出します。大学院もずっと稲葉先生にお世話になり、ご指導いただきました。先生は学問的には非常に厳しい先生でした。また、お酒は飲まれないのによくコンパに来てくださいます。話し相手になってくださる非常に開けた先生で

した。
―教員になられてから先生は剣道部の顧問になられましたね。

昭和四十一年（一九六六）年に私が専任講師になると同時に剣道部の顧問を依頼されました。それまで私は中学、高校とソフトテニスをやっておりました。剣道には全く縁がありませんでした。しかし、結局退職まで三十五年間、顧問を勤めることになりました。

就任当時は大谷大学に専用の剣道場はなく、今の一号館のところに芝生がありまして、そこで素振りをしたり、あるいは屋上を利用したりしましたが、授業中やかましいという苦情を受けることもあり、ほどほどに注意しながら練習しました。しかしそれだけでは稽古が足りませんので、上鴨警察署などの外部の道場を借りたりして、部員諸君は大変苦勞しながら稽古をしました。

昭和四十七（一九七二）年に体育館が完成し、その中に立派な道場ができました。そしてその数年後には、全国の仏教系大学の剣道大会を本学で持てるようなどころまでになりました。

顧問の間に、女子剣道部のメンバーが全日本大会に出場できたことや、それについて名古屋別院の道場を借りて合宿したことなど、良い思

い出をあげればきりがありません。まったくの素人の私が顧問をしていろいろの人と出会い、またその人たちから多くのことを学んだなあ、今にして思えば非常に幸せな大学生活であったと思います。

—教育面で思い出に残ることがありましたらお話しください。

ゼミを持つようになったのは昭和四十七（一九七二）年からだと思いますが、私のところにはなぜか空手道部や剣道部や陸上競技部、硬式野球部など非常に元気な学生が集まりました。お酒の好きな連中が多くてよく「天寅」というところでコンパをし親交を深めました。

また、専任の教員になつてからずっと短期大学部にお世話になりました。十七年間ぐらいだったと思います。仏教科の主任も何年間か勤めさせていただきました。その間で一番大きいのは、せつかく二年間学んだのだから、何かその学びを形として表して巣立ってもらいたいということ、三十枚程度の卒業研究の作成を義務づけたことです。そして、全員の卒業研究の要旨を載せた『仏教研究紀要』という雑誌も所属教員の賛同のもと発刊し、現在も続いているものと思います。

それともう一つ思い出深いのは、毎年一回生が入ってきたら、梅雨時

に真宗興正派の興正会館とか粟生の光明寺の西山会館とかあちらこちらの会館を借りて一夜研修会を行いました。大学に入ってどんな学びをしていくのかというような班別座談会をして、和気あいあいと短期大学らしい雰囲気でも盛り上がりました。未だに当時の学生さんが訪ねてきてくれたり、短期の同窓会を開いてくれたりすることを思うと、かなり思い出が深いなあと思います。

今もそうですが、短期仏教科は真宗学と仏教の両方の教員と一緒になつて学生を指導して、学部よりもがんばる仏教科というような勢いがあります。それを形作ることができたのではないかと自画自賛しております。

—最後に大谷大学と学生に対するメッセージをお願いします。

そうですね。私が学んだ頃は、おんぼろの建物の中、火鉢ひとつで互いに手を広げながら暖をとって研鑽し合つた。今の若い人を見てみると、モノでも何でもあつて当たり前というような意識があるように思います。あつて当たり前前で、人と人との親しみもなく、みんなそれぞれ殻の中に閉じこもつてしまっているのではないかなあと思います。

もつとハングリー精神をもつて、大谷大学でしか学べないというもの

を貪欲なまでに身につけていってほしい。それがやがて人生の堆肥となり、やがて花開いて実を結ぶという

ような方向性を、大学の諸君が持つていただけたらなあと思わずにいられます。

〔略 歴〕

- 一九三三年 岐阜県に生まれる
- 一九五五年 大谷大学文学部卒業
- 一九六〇年 大谷大学大学院博士課程
- 真宗学専攻単位取得
- 一九六〇年 大谷大学助手
- 一九六六年 大谷大学短期大学部専任講師
- 一九六九年 大谷大学助教授
- 一九七〇年 学長補佐
- 一九七二年 学生部長
- 一九七八年 大谷大学教授
- 一九八六年 大谷大学学監・文学部長
- 一九九八年 大谷大学退職
- 現在 大谷大学名誉教授

〔著 書〕

- 『真宗行信論の研究』
- 『現代の苦悩といのちのよろこび』
- 『昭和新聞 教行信證御自釋（共編）』
- 『禿庵文庫本・選擇本願念佛集（共編）増補改訂 日本大藏経第九十一巻』
- 『宗典部浄土諸宗章疏三 稲葉秀賢・白井元成校訂「顕浄土真実教行証文類」（共編）』
- 〔論 文〕
- 『信卷』三信釋の教理的背景
- 『業を浄めるもの』
- 『光明・名号の因縁』
- 『祖聖親鸞の生死』
- 他論文多数

授業から部活動まで

大谷大学教授（真宗学） 一 柴 真



いちらく まこと
1985年3月大学院博士後期課程
真宗学専攻（満期退学）

白井元成先生へのコメント

白井先生と云えば、ゼミ生に限らず、誰もが「お世話になった」という思いを懐くはずである。学生生活をはじめ、授業の単位、クラブ活動等のあらゆる面で。かく言う私も先生が顧問をしてくださった剣道部で

本当にお世話になった一人である。戦後の日本は剣道が禁止されていた時期がしばらく続き、本学の剣道部もかなりの空白期間があった。ようやく復活の機運が起こった時、師範として安立多計彦先生を招聘するなど、白井先生が活動再開のためにご尽力くださった。その剣道部も復活から四十周年を超えたが、先生は現在も名誉顧問として講武会（OB会）に関わつてくださっている。個人的には、先生のお宅にたびたびお邪魔して鍋をご馳走になったことが、昨日のこのように思い出される。



本部報告



二〇一〇年度同窓会総会開催（報告）

二〇一〇年五月十二日（水）午後一時三十分より、博綜館第一会議室において、本年度総会が開催されました。

議長に金沢支部長の木越渉氏を選出。各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。一、二〇〇九年度事業報告および収

支決算報告（左記「収支決算書」参照）

二、役員選出（欠員）の件

▼草野顕之学長が同窓会顧問に推挙され、就任されました。

▼同窓会発展のために多大なるご尽力を賜りました井関浄理事より、辞意表明があったことが事務局より報

2009年度 大谷大学同窓会本部収支決算書	
(単位 円)	
【収入の部】	
科 目	決算額
1.前年度繰越金	4,173,894
2.会 費	29,988,000
会費(1)	1,638,000
会費(2)	28,350,000
3.入 会 金	4,725,000
4.出版物等売上金	37,210
5.雑 収 入	2,796,478
合 計	41,720,582
会費(1)：1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費 会費(2)：2009年度卒業生の終身会費	
【支出の部】	
科 目	決算額
1.事 業 費	13,814,906
本部事業費	3,797,629
支部事業助成費	5,307,920
同期会・OB会等開催助成費	610,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	3,599,357
2.刊 行 費	5,096,914
無盡燈刊行費	4,242,772
印刷製本費	854,142
3.事 務 費	5,305,584
本部事務局費	14,994
活動費	462,000
通信費	4,828,590
4.旅 費	8,269,320
5.会 議 費	1,391,949
6.委 託 費	2,408,426
7.雑 費	374,730
8.同窓会基金への繰入支出	578,156
9.出版事業積立金への繰入支出	10,060
10.同窓会活性化準備金	638,281
11.予 備 費	0
12.次年度繰越金	3,832,256
合 計	41,720,582

2010年度 大谷大学同窓会本部収支予算書	
(単位 円)	
【収入の部】	
科 目	予算額
1.前年度繰越金	3,832,256
2.会 費	27,780,000
会費(1)	1,890,000
会費(2)	25,890,000
3.入 会 金	4,315,000
4.出版物等売上金	100,000
5.出版事業積立金からの繰入収入	5,039,829
6.雑 収 入	3,067,000
合 計	44,134,085
会費(1)：1990年度以前卒業生の終身会費・通常会費 会費(2)：2010年度卒業生の終身会費	
【支出の部】	
科 目	予算額
1.事 業 費	14,170,000
本部事業費	4,020,000
支部事業助成費	5,500,000
同期会・OB会等開催助成費	700,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	3,450,000
2.刊 行 費	4,980,000
無盡燈刊行費	4,210,000
印刷製本費	770,000
3.事 務 費	5,965,000
本部事務局費	60,000
活動費	480,000
通信費	5,425,000
4.旅 費	8,870,000
5.会 議 費	1,590,000
6.委 託 費	2,500,000
7.雑 費	480,000
8.同窓会基金への繰入支出	5,039,829
9.同窓会活性化準備金	300,000
10.予 備 費	239,256
合 計	44,134,085

告されました。また、本年四月の当局交代に伴い、慣例により役職充て職として門脇健教授（学監・文学部長）の常務理事就任。織田顕祐教授（大学院文学研究科長）並びに藤嶽明信教授（真宗総合学術センター長）の、当局就任による常務理事退任が報告され、理事の欠員について、ご審議いただきました。

その結果、常務理事の補充については、宮崎健司教授並びに古角智子総務部事務部長の就任が承認されました。

なお、総会後、総務部事務部長の人事異動に伴い、六月一日より古角智子常務理事に代わり、水谷賢雄総務部事務部長が常務理事に就任されました。

▼「同窓会活動企画推進委員会」担当の学内常務理事につきまして、第一部会は一楽真常務理事に代わり宮崎健司常務理事が、第二部会は、織田顕祐大学院文学研究科長に代わり一楽真常務理事がそれぞれ担当する旨、事務局より報告されました。

三、同窓会活動企画推進委員会に関する件

▼一楽真常務理事（前第一部会学内担当）から第一部会の部会活動報告がなされた後、「第十五回ホームカミングデー開催要項（案）」が提案され、承認されました。続いて、柴



同窓会総会の様子（博綜館第1会議室）

田達也第二部会長、織田顕祐大学院文学研究科長（前第二部会学内担当）から第二部会の活動報告がなされました。

四、二〇一〇年度事業計画および収支予算（案）（上記「収支予算書」参照）

五、NPO法人「尋源舎」の充実・発展について

▼NPO法人「尋源舎」（七頁参照）の織田顕祐理事より、NPO法人「尋源舎」の活動についての報告があり、今後、支部単位での賛助会費の納入についての協力要請がなされました。また、「夏季八十講」において、担当される講師からもNPO法人「尋源舎」への賛助を参加者に呼びかけていくことが報告されました。

**野田晶子さん「文部科学大臣
優秀教員表彰」を受賞**

野田晶子さん（一九七三年文学部文学科卒業）が、平成二十一年度の文部科学大臣優秀教員表彰を受賞されました。

野田さんは、俳句を国語の授業に取り入れてから十六年目になります。感性溢れる高校生にとって、心の分かち合いができる教材は何かと、国語教師として二十年求め続けられ、その結果、ついに「不自由の中の自由」という五七五の俳句に漂着されました。

引つ込み思案だった生徒が俳句の魔法にかかって目を輝かせる、そんな姿に野田さんは、俳句は自己表現の最も凝縮された形で、心の表現に最適だ、と直感され即実践されました。季語や形式・切れ字などの制約つまり、「形」から入るのも一つの方法と認識され、のびのびとしたリズムに乗り心を遊ばせ始め、明るく輝きだした生徒の姿に自信が持てた瞬間、ご自身も心が癒されたと話されました。

現在、岐阜県立神岡高等学校で国語科教諭としてお勤めで、授業で創作した俳句や短歌を、各種のコンクール等に応募し、入賞者を多数出されています。その成果として、俳



受賞の野田晶子さん(左)と草野顕之学長

句 甲子園（愛媛県松山市で開催）に連続七回・短歌甲子園（岩手県盛岡市で開催）には三年連続出場をされており、今年度も出場が決定しています。このたび、このような教育実践に顕著な成績をあげたことが認められ、今回の受賞となりました。

そして、二〇一〇年五月二十一日（金）、母校に受賞報告の挨拶に来校され、草野顕之学長と懇談されました。野田さんは「子どもは自分を表現したいという気持ちがあります。だから五七五に表し、心をスッキリさせる感性を表現する教育が大事だと思います。大谷大学で学べたからこそ、このような考え方や受け止め方ができるようになり、また、今の私があると感謝しています。」とお話くださいました。

**二〇〇九年度同窓会学生支援
表彰「菩提樹賞」が贈られる**

二〇一〇年三月十八日（木）、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式が、卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会において執り行われ、藤島建樹同窓会会長から

二〇〇九年度表彰者二名に表彰状と記念品が贈られました。

この「菩提樹賞」は、同窓会が学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生または課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って贈るものです。

二〇〇九年度「菩提樹賞」受賞者 ◎重久麻実子（文学部社会学科・二〇一〇年三月卒業）

入学時から教員免許取得に意欲的で、小・中学校のボランティアやインターシップには第一学年から積極的に参加。また、小学校の特別支援という形で、教育現場に身を置いて活動。その結果、京都市教員採用試験「中学校社会」、文部科学省が実施する小学校教員資格認定試験のいずれにも現役で合格。

◎美濃部裕道（文学部社会学科・二〇一〇年三月卒業）

二〇〇六年に開催された「全国障



美濃部裕道さん(左)と重久麻実子さん(右)

害者スポーツ大会のじごく兵庫大会」で、ビンバツク投げ競技に出場し、大会新記録

で優勝。また、滋賀県で初の電動車椅子サッカーチームを結成し、代表として活躍。他にも小・中学校や養護学校で、障害児理解の特別授業の講師を務めるなど、多方面で活躍。

支部長・事務局交代のご紹介

ありがとうございます
よろしくおねがいました

〈青森支部長〉 高澤 暢 男

（前支部長 竹園 閔）

〈三条支部長〉 清 水 幸 栄

（前支部長 鈴木順丸）

〈播磨支部長〉 赤 松 弘 之

（前支部長 木村 毅）

〈島根支部長〉 蓮 岡 隆 章

（前支部長 多賀徹生）

〈鹿児島支部長〉 森 田 唯 信

（前支部長 中村高澄）

〈青森支部事務局〉 園 村 義 誠

（前事務局 石澤一昭）

敬 弔

同窓会発展のため、ご尽力たまりました前同窓会理事・前大阪北支部長の井関浄氏が二〇一〇年六月十七日に、また同窓会茨城支部長の関野睦氏が二〇一〇年七月十日にご逝去されました。ここに深甚の謝意を表し、謹んでお悔やみ申し上げます。

第十五回 同窓会ホームカミングデーのご案内

同窓会ホームカミングデーが、今年も学園祭（「紫明祭」）開催期間中の土曜日に開催されます。

第Ⅰ部は、テーマを「集おう!! 母校で」と題して、母校・大谷大学で各種イベントを企画しています。

「恩師、旧友との再会」では思い出話に花が咲き、また、新しい同窓生との出会いがあることでしょう。

参加型イベントとしては、クイズツアー「学舎散策」を企画しています。学内を散策しながら、大谷大学についてのクイズに答えていただきます。参加者には、例年同窓会役員・支部から寄せられる、全国各地の「銘菓」「銘酒」「農作物」など、たくさんのお土産を準備（予定）しています。第Ⅱ部の懇親会では、「同窓生の



比叡山を背に、屋上での記念撮影

活躍紹介」として、柴田真由美さん（フルート奏者、一九八五年文学部文学科卒業）にフルート演奏をご披露いただきます。その後、柴田さんを囲んでの懇親の場を計画しています。

同窓のご友人をお誘い合わせのうえ、母校大谷大学にぜひお越しください。

【開催の概要】

「二〇一〇年十一月十三日（土）」



第Ⅰ部 学長挨拶



第Ⅰ部 参加型イベント



第Ⅱ部 懇親会

※4枚の写真は第14回(昨年)のホームカミングデーの風景から

「第一部」集おう!! 母校で

〈会費無料〉

▼大谷大学 博覧館第一会議室 他

十三時～十六時

・屋上での集合記念撮影

・恩師、旧友との再会

・学園祭模擬店参加

・参加型イベント

クイズツアー「学舎散策」

「第二部」懇親会〈会費五〇〇〇円〉

▼京都ロイヤルホテル&スパ

十七時三十分～十九時三十分

・柴田真由美さん（同窓会員）によるフルート演奏と懇親会

・

★「ホームカミングデー」第Ⅰ部を集合場所としてご利用いただき、「ゼミ・クラス同期会」「OB・OG会」を計画されてはいかがでしょうか。希望される場合は、同窓会本部（電話〇七五―四一―八二―四）までご連絡ください。

★イベント等の詳細につきましては、同封の「ホームカミングデーご案内」をご覧ください。

二〇一〇年度 夏季巡回講演
「大谷大学・同窓会
全国縦断夏季八十講」
並びに支部総会が開催される

今年の夏の巡回講演は、七月から九月にかけて、「大谷大学・同窓会全国縦断夏季八十講」（左記「ポスター」）として開催されました。夏季八十講は、全国に八十支部ある同窓会支部と、大谷大学とが協働して開催するもので、同窓生・在学生はもとより、広く市民にも公開され、地域社会の文化興隆に大きな役割を果たしています。

また今年度、「金沢支部」「岡山支部」「福岡支部」の各支部では、NPO法人「尋源舎」との共催で、「仏教公開セミナー」として実施されました。



「仏教公開セミナー」の様子（金沢支部）

2010年度 大谷大学・同窓会 全国縦断 夏季八十講

統一テーマ:大谷大学の学問

● 信越地区

- 佐藤 幸夫 9月 7日(火) 伊知野 弘 教授 大谷大学の学問 ―「道」との出会い―
- 三 幸 9月 7日(火) 伊知野 弘 教授 大谷大学の学問 ―「心」のち、との出会い―
- 上 雄 9月 5日(日) 伊知野 弘 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」との出会い―

● 東海地区

- 新藤 隆 8月 29日(日) 山内 一朗 教授 人間の心 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 三島 幸 9月 2日(水) 草野 隆之 学長 大谷大学の学問 ―「歴史」との出会い―
- 坂野 幸夫 9月 3日(木) 草野 隆之 学長 大谷大学の学問 ―「歴史」との出会い―
- 二 幸 9月 5日(土) 山野 徳郎 教授 大谷大学の学問 ―「仏教」における道徳―
- 大 幸 9月 5日(土) 山野 徳郎 教授 大谷大学の学問 ―「仏教」における道徳―
- 坂 幸 9月 7日(日) 山野 徳郎 教授 大谷大学の学問 ―「仏教」における道徳―
- 野上 8月 28日(土) 山内 一朗 教授 人間の心 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 岡 幸 8月 28日(土) 山内 一朗 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―

● 北陸地区

- 高 山 8月 6日(日) 斎藤 隆 海城大学 大谷大学の学問 ―「仏教」との出会い―
- 高 山 8月 4日(日) 三木 重行 海城大学 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 新 井 8月 21日(土) 水島 英一 教授 人が集まるにまてて生まれる心
- 新 井 8月 20日(土) 水島 英一 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 小 松 8月 5日(水) 斎藤 隆 海城大学 大谷大学の学問 ―「仏教」との出会い―
- 大野 幸 8月 19日(土) 水島 英一 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 9月 7日(日) 草野 隆之 学長 大谷大学の学問 ―「歴史」との出会い―

● 近畿地区

- 新 井 8月 1日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 新 井 8月 29日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 新 井 8月 29日(日) 宮下 隆雄 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 新 井 7月 31日(土) 山野 徳郎 教授 大谷大学の学問 ―「仏教」における道徳―
- 山 崎 8月 17日(土) あらびき(アクトレター) あらびき(アクトレター) 仏教を学ぶ
- 丹 井 8月 4日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 大塚 幸 大塚幸夫 大塚幸夫 8月 10日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 林 一 8月 28日(土) 長瀬 一夫 教授 仏教における道徳
- 和泉山 8月 22日(日) 支那学会の会報
- 新 井 8月 5日(水) 松川 隆 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 藤 幸 8月 31日(土) 本村 宏彰 名誉教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―

● 中国・西国地区

- 島 幸 8月 29日(日) 一色 肇心 教授 新徳の道徳と道徳の子の道徳
- 山 崎 8月 4日(土) 藤川 繁文 講師 共に生きる道
- 山 崎 8月 4日(土) 高橋 一夫 教授 仏教における道徳
- 北 幸 9月 2日(水) 藤川 繁文 講師 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 山口 8月 5日(土) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 西 幸 8月 30日(日) 本村 宏彰 名誉教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―

● 九州地区

- 坂 幸 9月 4日(土) 草野 隆之 学長 道徳の道徳と道徳
- 九尾 幸 9月 3日(日) 藤川 繁文 講師 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 8月 21日(土) 伊知野 弘 教授 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 大 幸 8月 20日(土) 一色 肇心 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 北九州 8月 20日(土) 一色 肇心 教授 新徳の道徳と道徳の子の道徳
- 高 山 8月 23日(日) 一色 肇心 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 新 井 8月 20日(土) 伊知野 弘 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 8月 25日(日) 一色 肇心 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 藤川 幸 8月 19日(日) 伊知野 弘 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―

● 北海道地区

- 坂 幸 7月 22日(日) 大内 文雄 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 小 松 7月 25日(水) 藤川 繁文 講師 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 札幌 道徳 7月 25日(水) 藤川 繁文 講師 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 伊 川 7月 23日(日) 本村 宏彰 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 7月 23日(日) 大内 文雄 教授 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 7月 23日(日) 本村 宏彰 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 7月 23日(日) 本村 宏彰 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 十 幸 7月 24日(土) 大内 文雄 教授 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 藤川 幸 7月 23日(日) 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 7月 23日(日) 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 7月 23日(日) 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―

● 東北地区

- 藤川 幸 8月 24日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 8月 22日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 8月 27日(土) 加藤 隆之 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 8月 23日(日) 藤川 繁文 講師 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 山 崎 8月 28日(土) 加藤 隆之 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 藤川 幸 8月 28日(土) 加藤 隆之 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―

● 関東地区

- 宮 崎 8月 27日(土) 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 8月 19日(日) 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 8月 20日(日) 道徳の時代 ―世界・アジア・日本―
- 坂 幸 9月 4日(土) 門田 隆雄 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 十 幸 8月 5日(土) 門田 隆雄 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 坂 幸 8月 20日(日) 水島 英一 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 神田 幸 7月 31日(土) 水島 英一 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―
- 山 崎 8月 1日(日) 水島 英一 教授 大谷大学の学問 ―「道徳」の根源を学ぶ―



● お問い合わせ:大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8124

NPO法人「尋源舎」について

NPO法人「尋源舎」は、同窓会が設立母体となって、二〇〇六年十二月に設立した、仏教の公開を目的とした特定非営利活動法人です。尋源舎では、活動や事業をご支援いただける賛助会員(年会費 一口三千円)を募集しております。お問い合わせは、大谷大学同窓会本部(TEL・〇七五―四一―八一―二四)まで。



母校だより

名誉教授の称号おくられる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が小谷信千代先生（仏教学）、鈴木繁一先生（英文学）、中桐伸吾先生（体育学）、木村宣彰先生（仏教学）におくられました。授与式は小谷先生、鈴木先生、中桐先生が二〇一〇年四月一日（木）、木村先生が二〇一〇年五月二十八日（金）、学長室において行われました。



鈴木繁一名誉教授



小谷信千代名誉教授



中桐伸吾名誉教授



木村宣彰名誉教授

大谷学会「春季公開講演会」を開催

二〇一〇年五月二十七日（木）、一般参加者を含め大勢の聴衆を迎えて、大谷学会「春季公開講演会」が開催されました。

最初に大谷大学の池上哲司教授が、「倫理の場所」という題で講演されました。

まず、倫理学というものがどこに基準を置くかを語り、倫理の普遍妥当性を確立することの困難性に触れ、その危うさに踏みとどまり、個々の具体的な場面に問いかけることをや



池上哲司教授

めないことの中に倫理学の本質があると、学生時代の話や介護や医療の現場の具体例を示しながらお話しされました。倫理学は「当為を指示するもの」でなく、「当為」は人と人との限界を示すものととらえられるべきではないかと説かれました。さらに、ヤスパースの罪の分類や、カントと清沢満之の思想を例に、「倫理と宗教」との関係について述べられました。講演後、聴衆からいくつも寄せられた質問に丁寧に応えられました。

次に、評論家の柄谷行人氏が、「世界史の構造について」という題で講演されました。

社会構成体の歴史を生産様式から見たマルクスに対し、柄谷氏はそれを「互酬」「再分配」「商品交換」という複数の交換様式の結合体ととらえる見方を提示されました。これら



柄谷行人氏

の交換様式のどれが支配的であるかによって「世界システム（複数の社会構成体がとる関係システム）」を分類した後、「互酬」という交換様式を高次元で回復したものであるの「交換様式D」というものを提示し、それが「世界共和国」という理想のシステムを形成するはずであると述べられました。また、その「交換様式D」というものは、実は「普遍宗教」の発生を導いたものだと言明されました。

「交換様式」というまったく新たな視点のもとに世界史と宗教を論ずる野心的な試みに、知的好奇心を刺激された聴衆から、講演後も質問が絶えませんでした。途切れることなく出される質問に、柄谷氏は大幅に時間を超過してまで誠実に答えられ、大盛況のうちに講演会は終わりました。

母校の動き (2010年4月～2010年8月)

2010年

4/ 1(木) 【学年始・宗祖誕生日】

【入学式】

4/ 1(木)～5/22(土)

【博物館 2010年度春季企画展】
大谷大学のあゆみ「赤レンガの学舎」

4/ 6(火) 【前期授業開始】

4/ 8(木) 【釈尊降誕日】

4/10(土) 【若葉祭】

4/28(水) 【宗祖御命日勤行・講話】

「読む」ということ 藤本 芳則 大谷大学教授

5/12(水) 【同窓会総会】

5/13(木) 【歴史学科新歓講演会】

「敦煌文書の話」
辻 正博 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授

5/27(木) 【大谷学会春季公開講演会】

「倫理の場所」 池上 哲司 大谷大学教授
「世界史の構造について」

柄谷 行人 評論家

5/28(金) 【宗祖御命日勤行・講話】

「尼門跡墨華院の袈裟をめぐって」
Monica A. Bethe 大谷大学教授

5/29(土) 【宗祖御誕生会】

「鈴木大拙師英訳『教行信証』の編集をめぐって」
前田 専學 財団法人東方研究会理事長
東方学院院长

6/8(火)～8/8(日)

【博物館 2010年度夏季企画展】
日本画家 畠中光享の眼 インド・仏教美術の流伝

6/ 9(水) 【2010年度“人権問題を共に考えよう”全学学習会】

「格差社会をどう超えていくか」
斎藤 貴男 フリーランスジャーナリスト

6/19(土) オープンキャンパス

6/24(木) 【宗祖御命日勤行・講話】

「自信教人信の人 清沢満之」水島 見一 大谷大学教授

【西洋哲学倫理学春季公開講演会】

「ジェイムスの純粹経験の哲学」
伊藤 邦武 京都大学大学院文学研究科教授

6/30(水) 【教育後援会評議員会】

【文藝学会公開講演会】
「『平家物語』と『太平記』のことは — 形容詞「あさまし」の語義 —」

池田 敬子 大谷大学教授

「文化交渉学と言語接触 — 翻訳とは何か —」

内田 慶市 関西大学教授

7/ 3(土) 【博物館 2010年度夏季企画展 記念講演会】

「仏像はなぜつくられたか—インド仏像の展開」
畠中 光享 日本画家、大谷大学非常勤講師

7/ 7(水) 【異文化との出会い】

「アフリカ音楽のタベ&オスマン・サンコン氏講演会」
「ギニアと日本」 オスマン・サンコン タレント

7/12(月) 【宗教学会第29回「大拙忌」記念公開講演会】

「精神科治療の経験から見た心と身体の関係」
新宮 一成 京都大学大学院人間・環境学研究科教授

7/17(土) オープンキャンパス

7/18(日) 【教育後援会関東地区父母兄弟懇談会(東京会場)】

7/19(月) 【教育後援会東北地区父母兄弟懇談会(秋田会場)】

7/16(金)～30(金) 【安居】

本講『顕浄土真実行文類』
本多 弘之 親鸞仏教センター所長
次講『大般涅槃經』
織田 頭祐 大谷大学教授

7/21(水)～23(金) 【晴天講座】

21(水) 「無限の新生命—西田幾多郎と親鸞」
門脇 健 大谷大学教授

22(木) 「『涅槃經』の人間観」 織田 頭祐 大谷大学教授

23(金) 「浄土の音声(おんじょう)」

本多 弘之 親鸞仏教センター所長

7/28(水) 【宗祖御命日勤行】

8/1(日)～9/16(木) 夏期休暇

8/7(土)～8/ 8(日) オープンキャンパス

また前田氏は、真宗大谷派の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業

宗祖親鸞聖人の御誕生会が、二〇一〇年五月二十九日(土)、講堂において来賓、教職員、在学生、一般来聴者約五百人の参加を得て厳修されました。勤行に引き続き、学長挨拶、記念講演が行われました。今年度の記念講演は、財団法人東方研究会理事長・東方学院院长の前田専學氏が講師に迎え、「鈴木大拙師英訳『教行信証』の編集をめぐって」と題しての講演でありました。



前田専學氏

宗祖親鸞聖人御誕生会を厳修



森本修平さん



安藤義浩さん(左)と小野賢明さん(右)

二〇一〇年三月十八日(木)、博士後期課程修了者三名に大谷大学から博士(文学)の学位が授与されました。学位取得者は、安藤義浩さん(真宗学)、小野賢明さん(真宗学)、森本修平さん(仏教文化)の各氏です。

課程博士の学位が授与される

の一環として行っている英訳『教行信証』の再編集の紹介やその取り組みの意義についても述べられました。新入生にもわかりやすいように丁寧にお話いただき、聴衆は氏の講演に最後まで熱心に耳を傾けていました。

硬式野球部より三名が日本代表
に選ばれ、国際野球大会に出場

二〇一〇年七月九日(金)から七月十八日(日)まで、オランダにおいて、国際野球大会「第二十五回ハイレムベースボールウィーク」が開催されました。そして今回選抜メンバーに、本学硬式野球部の平岡涼さん(同部監督/本学事務職員)、増田竜也さん(投手/文学部仏教学科第四学年)、細川智斗世さん(外野手/文学部人文情報学科第三学年)の三名が選出され、選抜メンバーの一員として出場しました。

今回の大会には、全日本大学野球連盟から京滋大学野球連盟(本学硬式野球部所属)が推薦を受け、京滋

での
挨拶の様子
(大谷大学講堂で)



増田竜也さん(左)
平岡涼さん(中央)
細川智斗世さん(右)

大学野球連盟の選抜チームが日本代表チームとして参加しました。

この大会の参加国は、日本/オランダ/アメリカ/キューバ/チャイニーズタイペイの五カ国で、結果、日本代表チームは三位になりました。

落語研究会が近隣地域の寄席に
参加

二〇一〇年六月六日(日)、本学の落語研究会が第四回「ほうとく寄席」に出演し、清水洋一郎さん(文学部史学科第四学年、芸名:賀茂乃歩翻壺)が「落語がまの油」、宮部大さん(文学部人文情報学科第三学年)・河村将伍さん(文学部文学科第三学年)のコンビ「もひかん」が漫才を披露しました。



宮部大さん(左)と河村将伍さん(右)



清水洋一郎さん

このイベントは、昨年の五月頃、京都市北区鳳徳学区の地域の方から「京都市内の大学の落語研究会さんに寄席をしてもらい、笑いの方で鳳徳地域を活性化していきたい」とのお話があったので、当時、落語研究会会長であった清水さんが中心となり、各大学の落語研究会に呼びかけて実現したものです。

また、二〇一〇年四月十八日(日)には、京都市上京区の弘誓寺において開催された長門町内会の第四十六回「観桜会」にも本学落語研究会の前田泰佑さん(文学部文学科第二学年、芸名:笑谷亭桐ヶ峰)と清水さんが参加するなど、精力的に活動を行っています。落語研究会の今後の活躍が期待されます。



前田泰佑さん(演目『動物園』)



清水洋一郎さん(演目『堪忍袋』)

ミュージアムグッズを販売中

大谷大学博物館が所蔵している貴重な資料をデザインした各種グッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。地方発送等も承ります(送料別)。お問い合わせ・お申し込みは同博物館(〇七五-四一一八-四八三)まで。

◆「トートバッグ」

四〇センチ×三〇センチ×八センチ(中国古印をデザイン)
一、五〇〇円(税込)



◆「クリアーファイル」

五枚一組特製封筒付き(中国雲崗石窟・天龍山石窟の拓本からデザイン)
五〇〇円(税込)



◆「ミニ便箋」

赤・青 各色(貝葉資料を包装のシルクよりデザイン)
三五〇円(税込)



二〇一〇年度 夏季企画展
日本画家 畠中光享の眼
インド・仏教美術の流伝

大谷大学博物館では、二〇一〇年六月八日（火）から八月八日（日）まで、二〇一〇年度夏季企画展として「日本画家 畠中光享の眼 インド・仏教美術の流伝」を開催いたしました。

畠中光享さんは、一九七〇年に大谷大学の文学部史学科を卒業後、京都市立芸術大学専攻科でも学ばれ日本画家として活躍されています。畠中さんは、仏伝やインドの風俗に取材した作品を数多く発表され、二〇〇四年には京都府文化賞功労賞を受賞されています。

また、畠中さんは、国内だけでなく海外でも展覧会に出展されています。二〇〇九年度には、エストニア国立美術館やラトビア国立博物館に招聘され、長期間の個展を開催されました。

今回の夏季企画展は、畠中さんが、インドを中心にネパールやチベット、タイなどの東南アジアの国々、そして日本にまで及ぶ範囲で収集されたコレクションの中から一〇〇点を、芸術家としての眼で精選いただき、紹介したものです。今回の夏季企画展の展示品には、十一世紀から十二

世紀頃のインド、パーラ朝期の挿絵入り貝葉経や五世紀のインド、グプタ朝期のサルナート仏、八世紀のインド、パーラ朝期の醉象調伏の仏陀像、タイ・ミャンマーなどの東南アジアの国々の仏像など、大変貴重な収集品が含まれています。

この夏季企画展開催に際して畠中さんは、「本展は、私個人の収集品であるため、展示品には制作された地域や時代に偏りがある。それは限られた個人の資力の中での収集のために他ならないが、一個の人間としての最大の努力と審美眼でもって長年にわたり収集してきた結果ではない。インドでは仏像の形や美意識は変化し、次第に仏像も多様化する。そしてインドから諸外国への伝播と、造仏の基本となる儀軌とその変容。仏像の美と流れを通して仏教を考え直すヒントとなることを願う」と述べられています。

今回の夏季企画展には、会期中、学の内外から三六九三名が来館され、成功のうちに終わりました。



二〇一〇年度
春季課外活動の結果

【団体成績】

●卓球部（男子）

- ・関西学生卓球春季リーグ戦
- IV部Cブロック二位 四勝一敗

●卓球部（女子）

- ・関西学生卓球春季リーグ戦
- IV部四位 二勝三敗

●柔道部

- ・京都学生柔道大会
- II部一位 三勝

- ・関西学生柔道優勝大会
- II部三位 二勝一敗

●硬式野球部

- ・京滋大学野球連盟春季リーグ戦
- I部三位 六勝七敗

●サッカー部

- ・第三十九回関西学生サッカー選手権大会
- 三回戦敗退

- ・第八十八回関西学生サッカーリーグ 前期
- III部Bブロック二位 八勝一敗

- ソフトテニス部
- ・関西学生ソフトテニス春季リーグ戦

- V部Dブロック四位
- ・京都学生ソフトテニス大学対抗Aブロック三位

●バドミントン部

- ・京都府知事杯争奪京都学生バドミントンリーグ戦大会
- III部Aブロック七位
- ・関西学生バドミントン春季リーグ戦
- VI部Cブロック四位

【個人成績】

●陸上競技部

- ・第八十七回関西学生陸上競技対抗選手権大会
- 男子一〇〇〇mW 五位
- 西村 慈生
- （文学部社会科学科 第四学年）

- ・第六十五回京都陸上競技選手権大会
- 男子一〇〇〇mW 三位
- 西村 慈生
- （文学部社会科学科 第四学年）

●跆拳道部

- ・第五回仙台市親善テコンドー選手権大会
- 男子一般初級 五十八キロ級以下 準優勝
- 中垣 広幸
- （文学部人文情報学科 第三学年）

人事

学長就任

〔大谷大学学長(第二十七代)〕
兼大谷大学短期大学部学長
教授 草野 顕之

(任期は二〇一四年三月三十一日迄)
二〇一〇年四月一日付

部局長の交代

〔学監兼文学部長〕門脇 健

(前学監兼文学部長 大内 文雄)

〔大学院文学研究科長〕織田 顕祐

(前大学院文学研究科長 小谷 信千代)

〔短期大学部長〕徳岡 博巳

(前短期大学部長 一色 順心)

〔学生部長〕木越 康(再任)

〔真宗総合学術センター長〕藤嶽 明信

(前真宗総合学術センター長 乾 源俊)

〔入学センター長〕松川 節

(前入学センター長 宮崎 健司)

二〇一〇年四月一日付(各通)

館長などの交代

〔図書館長〕村瀬 順子

(前図書館長 Robert F. Rhodes)

〔博物館長〕齋藤 望

(前博物館長 礪波 護)

〔人権センター長〕谷 眞理(再任)

〔博物館主事〕平野 寿則(再任)

〔総合研究室主任〕並木 治

(前総合研究室主任 宮下 晴輝)

二〇一〇年四月一日付(各通)

退職・解任

鄭 早苗(教授・文学部)

寺添 証顕(任期制助教)

二〇一〇年二月四日付(各通)

*定年退職

〔教育職員〕

小谷信千代(教授・文学部)

木村 宣彰(教授・文学部)
鈴木 繁一(教授・短期大学部)
中桐 伸吾(教授・文学部)
村松 法文(教授・文学部)
二〇一〇年三月三十一日付(各通)

*契約期間満了による退職

〔教育職員〕

古屋 哲(任期制講師・文学部)

青木 玲(任期制助教)

井内 真帆(任期制助教)

古谷 伸子(任期制助教)

堂蘭 淑子(任期制助教)

西尾 浩二(任期制助教)

藤井 政彦(任期制助教)

宮本 浩尊(任期制助教)

〔事務系嘱託〕

上垣みちえ(教育研究支援部)

榎川みのり(教育研究支援部)

酒井 絵理(学生支援部)

佐々木晃子(企画・入試部)

佐藤 雅子(教育研究支援部)

清野 暁子(企画・入試部)

徳正 絢子(学生支援部)

〔寮監〕

香月 拓(貫練学寮)

森 万里子(自灯学寮)

〔実習アドバイザー〕

射場美恵子

大和 正克

〔教職アドバイザー〕

長谷川浩三

二〇一〇年三月三十一日付(各通)

*依願退職

〔教育職員〕

加治 洋一(教授・短期大学部)

藤谷 昌紀(講師・文学部)

〔事務職員〕

平野 紹寿(総務部)

二〇一〇年三月三十一日付(各通)

笠沼 徳照(学生支援部)
二〇一〇年五月三十一日付

〔事務系嘱託〕

長谷川綾子(学生支援部)

二〇一〇年五月三十一日付

竹中 葵(教育研究支援部)

二〇一〇年七月三十一日付

新規採用

〔教育職員〕

池田 敬子(教授・文学部)

松浦 典弘(准教授・文学部)

石本 哲子(講師・文学部)

小川 健一(任期制講師・文学部)

亀田十未代(任期制講師・短期大学部)

川端 泰幸(任期制講師・文学部)

金 京子(任期制講師・文学部)

西川 知亨(任期制講師・文学部)

青木 三陽(任期制助教)

大角 紘一(任期制助教)

太田 路子(任期制助教)

後藤 智道(任期制助教)

長谷川琢哉(任期制助教)

福島 重(任期制助教)

藤原 智(任期制助教)

右田 裕規(任期制助教)

〔事務職員〕

秋田 隼一(学生支援部)

岩田 政代(総務部)

上垣みちえ(企画・入試部)

植島 潤(教育研究支援部)

岡 圭介(教育研究支援部)

〔事務系嘱託〕

荒木さとみ(企画・入試部)

井倉 あい(学生支援部)

池畑 聡美(学生支援部)

北村 悦子(教育研究支援部)

北村 悦子(教育研究支援部)

田村有美子(教育研究支援部)

塚本 祥子(学生支援部)

永井 詞子(教育研究支援部)
村上 力(企画・入試部)
二〇一〇年四月一日付(各通)

〔事務系嘱託〕

高橋 良子(学生支援部)

二〇一〇年六月一日付

〔寮監〕

光川 眞翔(貫練学寮)

谷口 愛沙(自灯学寮)

〔実習アドバイザー〕

牧野 一元

〔教職アドバイザー〕

西寺 正

二〇一〇年四月一日付(各通)

昇格

〔教授〕

岩瀬 信明(文学部)

〔准教授〕

井上 尚実(文学部)

大秦 一浩(文学部)

三木 彰円(短期大学部)

山内 清郎(文学部)

采翠 晃(文学部)

二〇一〇年四月一日付(各通)

*二〇一〇年度 学科主任一覧

〔文学部〕

真宗学科 一 楽 真

仏教学科 一 色 順 心

哲学科 村 山 保 史

社会学科 滝 口 直 子

歴史学科 浅 見 直 一郎

文学科 加 藤 丈 雄

国際文化学科 李 加 藤 丈 雄

人文情報学科 池 田 佳 和

教育・心理学科 水 島 見 一

〔短期大学部〕

幼児教育保育科 山 野 俊 郎

藤 本 芳 則

大谷大学教員の出版物紹介

◎『魂の正義—プラトン倫理学の視座』

朴一功 著

京都大学学術出版会 刊

(二〇一〇・二) 二九二頁



◎『真宗教団の地域と歴史』

草野顕之 著

清文堂出版株式会社 刊

(二〇一〇・三) 二九〇頁



◎『教育の根源的論理の探究』

—教育学研究序説—

川村覚昭 著

晃洋書房 刊

(二〇一〇・四) 二二三頁



大谷大学博物館 展覧会のご案内



図像集

秋季企画展

「写して伝える—文字と形—」

仏教や文化は、文字や造形により地域や時代を超えて伝えられました。本企画展では、北京版西藏大蔵経や法隆寺一切経、敦煌仏画模写、図像集などを中心に「文字」と「形」に着目し、写して伝える文化について紹介します。



百萬塔および陀羅尼

2010年9月7日(火)～9月25日(土) 実習生展併催

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
特別展 「親鸞—その人と生涯—」



選択本願念仏集
(重要文化財)



本願寺聖人伝絵(康永本)
(重要文化財) 東本願寺

明年2011年に宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌をお迎えするにあたり、本館特別展においても関連展示を3年連続展として開催します。今年度は、親鸞聖人の生涯をテーマに、『歎異抄』、「本願寺聖人伝絵」、法然上人・恵信尼公などゆかりの人々の資料を展示します。

2010年10月12日(火)～11月28日(日)

冬季企画展 京都を学ぶ
「京の寺内町」

2010年12月14日(火)～2011年2月19日(土)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は30分前まで)

※ただし、特別展期間中の金曜日に限り、午後7時まで開館

休館日 日・月曜日(本学が定める休日は休館します)

大谷大学博物館

〒603-8143 京都市北区小山上総町 Tel. 075-411-8483 http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

2010年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養を身につけたい方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

(講師の肩書は2010年4月現在のものです)

開放セミナーのご案内

1	テーマ	親鸞聖人の御生涯を迎える一文『御伝鈔』一
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	10月14日・21日・28日・11月11日・18日・25日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	10月7日(木)当日消印有効	

2	テーマ	日本古代の神話
	講師	生田淳司(大谷大学非常勤講師)
	開講日	12月8日・15日・22日(水)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	12月1日(水)当日消印有効	

2	テーマ	環境と文化—地形・地質学の立場から—
	講師	鈴木寿志(大谷大学講師)
	ゲストスピーカー	井本伸廣(京都教育大学名誉教授)/西山昭仁(東京大学地震研究所研究員)
	開講日	2011年2月5日・12日・19日・26日・3月5日・12日(土)
	時間	16:00～17:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	6,000円(税込)	
申込締切	2011年1月28日(金)当日消印有効	

3	テーマ	『親鸞聖人 四幅御絵伝』を読み解く—「形式」の意味・「絵相」の意味—
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	2011年2月3日・10日・17日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	2011年1月27日(木)当日消印有効	

紫明講座のご案内

1	テーマ	こころのさんぽ
	講師	佐賀枝夏文(大谷大学教授)
	ゲストスピーカー	成広のリ子(イラストレーター)
	開講日	12月2日・9日・16日(木)
	時間	14:00～15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	11月15日(月)当日消印有効	

4	テーマ	カフェで哲学② 変容する宗教—現代社会と「見えない宗教」—
	講師	狭間 芳樹(大谷大学非常勤講師)
	開講日	2011年2月12日・19日・26日(土)
	時間	14:00～15:30
	定員	40名(応募者多数の場合は抽選)
	会場	メディアホール/ビッグバレーカフェ
受講料	3,000円(税込)	
申込締切	2011年2月4日(金)当日消印有効	

【申し込み方法】

講座案内を請求される場合には、ハガキ、メールフォームいずれかにて、①氏名・フリガナ、②郵便番号・住所、③電話番号を明記してください。また講座を申し込みの場合は、上記①～③に④講座名を記入の上、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課

TEL.075-411-8161 (直通) FAX.075-411-8162 E-mail: o_semi@sec.otani.ac.jp

* 講座名等変更になる可能性があります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。このたびはご協力いただき誠にありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実に図るための環境整備に充ててまいります。

また、大谷大学は文部科学省から「特定公益増進法人」の認可を受けていますので、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。

今後も引き続き、募金のお申し込み受け付けを行っておりますので、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

二〇一〇年二月一日から二〇一〇年六月三十日までの間にご寄付をいただきました方々のご芳名は、次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

◆件数 三三件

◆寄付金総額 五〇八四、七四六円

「教育振興資金寄付者(敬称略)」

安部 浩一 江崎 眞一 小野 隆志
柿木 広昭 河野 哲了 佐伯 光義
田鶴浦昭典 龍山 了祐 坪井 一義
中嶋 観雄 橋本 一哉 日野 泰曉

「同期会」「OB・OG会」について

◆「同期会」等を開催される時は、事前に同窓会本部へご連絡ください！

◇同窓会本部より、幹事様に「開催届」を送付いたします。

大谷大学同窓会本部（大谷大学総務部「校友センター」内）

<連絡先>TEL：075-411-8124（直通）

FAX：075-411-8157（直通）

E-mail：kouyu@sec.otani.ac.jp

※電話・FAX・メール等、ご都合の良い手段でご連絡ください。

◆まずは開催の1ヶ月前までに「同期会開催届」「OB・OG会開催届」をご提出ください。

◇「同期会」としてお届けいただくためには、その団体の全対象者にご案内をされていることが前提となります。

◇クラブの「OB・OG会」は、すべての年度の卒業生が対象となります。

◇「開催届」の提出と上記の内容を満たしている団体には通信費の一部として「開催助成費」を補助しています。

◆同窓会本部では、こんなお手伝いができます。

1. 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。

◇ご連絡いただいた後、同窓会本部から「申請書」を送付いたします。

◇「名簿・宛名ラベル」の作成は、「申請書」が同窓会本部に届いた日より1週間～10日程度かかります。

（事務の都合上、それ以上かかる場合もございます。）

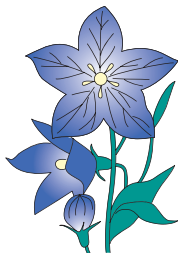
2. 大学の施設を、同期会の会場として利用できます。

◇利用を希望される場合は、事前に同窓会本部へご相談ください。

3. ホームページ「無盡燈」に開催予定・報告を掲載します。

同窓会報『無盡燈』には、写真とともに開催報告を掲載します。

※「同期会」「OB・OG会」についての詳細は、お気軽に同窓会本部までお問い合わせください。



平野 紹寿 深井 昭弘 藤井 茂
北條 秀樹 前田 光雄 馬淵 克一
源 進一 村居 悟 山田 武司
吉田美奈子 匿名(一名)
㈸石間企画事務所
NPO法人 尋源舎
大谷大学短期大学部 文化学科一同
㈸フラットエージェンシー
陽願寺 柏木支院(出雲路広称)
空蔵寺(大山 龍秀) 浄玄寺(櫻井之貫)
正覚寺(島添 信生) 法専寺(二宮 俊隆)
養願寺(日野 康宣)
※ご寄付につきましては随時受け付けています。
【申し込み/問い合わせ先】
京都市北区小山上総町
大谷大学校友センター内
教育振興資金事務局
TEL. 〇七五―四一―一八二二四



大谷大学茶道部後援会 (2010.2.13)
村松先生を囲む会をホテルにて開催しました。四十数名の会員と共に記念品を贈り長年のご指導に感謝して懇親会をしました。



自灯学寮第22期 同期会 (2010.2.13 ~ 14)
第22期自灯学寮生同期会を、卒業してから20年目の今年「天寅」で開催し、先生と一緒に、寮歌と炭坑節を大熱唱致しました！また5年後にやりまーす。



貫練学寮2期生同期会 (2010.2.17)
卒業後、29年の時を経て初めて開催された同期会。懐かしの京都に集った17名は皆「おっさん」でした。



同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を囲んで

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2010.2.13 (土)	大谷大学茶道部後援会
2010.2.13 (土)	自灯学寮第22期 同期会
~ 14 (日)	
2010.2.17 (水)	貫練学寮2期生同期会
2010.2.20 (土)	央真会 (大谷大学貫練学寮2002年度入寮生同期会)
	2010年新年会
2010.2.23 (火)	昭和43年3月卒業 谷大短期仏教科同期会
~ 24 (水)	
2010.2.27 (土)	幡谷明先生傘寿を祝う会
2010.3. 8 (月)	加治ゼミ2005 ~ 2007年度 同期会
2010.3.13 (土)	男声合唱団OB会 (コールリデンクラブ) 総会・懇親会
2010.3.28 (日)	写真部516の会 (昭和50 ~ 51年卒業)
~ 29 (月)	
2010.4. 7 (水)	S35年卒 多屋ゼミ一同
~ 8 (木)	
2010.4.11 (日)	昭和51年入学 史学科フランス語専攻1-Gクラス同期会
2010.4.17 (土)	木村宣彰先生ご退職記念祝賀会
2010.4.24 (土)	洗心四八会 木村先生退職祝賀会
~ 25 (日)	
2010.5. 2 (日)	2003年卒業 大内ゼミ クラス会
2010.5.11 (火)	第8回大谷大学33 (昭和33年入学) 同期会 富山県集會
~ 13 (木)	
2010.5.12 (水)	昭和47年度 大谷大学洗心学寮入寮生同期会
2010.5.29 (土)	宮崎ゼミ16期生 (2007年度史学科卒業) 同窓会
~ 30 (日)	
2010.6. 5 (土)	第34回浄眼洞 (山田亮賢先生門下生の会) 研修会
2010.6. 5 (土)	鍵主先生の喜寿を祝う会
2010.6.11 (金)	大谷大学空手道部創部55周年記念懇親会
2010.6.27 (日)	第39回大谷大学体育会ソフトテニス部OB会
2010.7. 3 (土)	児童文化研究会 (1979 ~ 1986年卒業) OB・OG会
2010.7.17 (土)	大谷大学写真部 (1989 ~ 1997年卒業) OB・OG会
2010.7.24 (土)	大谷大学自動二輪同好会第9回OB会
2010.7.31 (土)	第35回大谷大学バスケットボール部OB・OG会
2010.7.31 (土)	道交会 総会
2010.8. 7 (土)	浄影会



央真会 (大谷大学貫練学寮2002年度入寮生同期会) 2010年新年会 (2010.2.20)

7年ぶりに貫練学寮に集まりました。寮生時代の思い出話に盛り上がり楽しかったです。またやろうね！

昭和43年3月卒業 谷大短期仏教科同期会 (2010.2.23 ~ 24)
幾多の過酷な弾圧を受けながら、「念仏の信念に生きた人々の歩み」の研修を通し、我々の闘法姿勢が問われている様に感じた。



幅谷明先生傘寿を祝う会 (2010.2.27)
京都ホテルオークラを会場として、先生のご指導を受けた有志によって開催された。「恩徳讃の系譜」と題する記念講演の後、祝賀会に移り、85名の出席者が各々先生の思い出を語り、又旧交を温めた。



加治ゼミ2005～2007年度 同期会 (2010.3.8)
みんなと久々に再会でき大変嬉しく思いました。そして、素晴らしい仲間に出会えたことを本当に幸せだと感じました。



男声合唱団OB会 (コールリンデンクラブ) 総会・懇親会 (2010.3.13)
現役諸君による定演開催を期に集まりました。創立より80年。世代を超えて、メンタルハーモニーのすばらしさを共に味わいました。



S35年卒 多屋ゼミ一同 (2010.4.7～8)
卒業して五十年が経ちました。多屋頼俊先生、山本唯一先生のご恩を偲び、感謝の念を深くしてお勤めをしました。感無量でした。



写真部516の会 (昭和50～51年卒業) (2010.3.28～29)
セミナーハウスで、在学中に命終した山田幸一郎さんを偲んで同期会を開催しました。「516の会」と命名し再会を誓いました。



昭和51年入学 史学科フランス語専攻1-Gクラス同期会 (2010.4.11)
ゼミ専攻も違う、ただ初めて大谷大で集った同級生と44年ぶりに再会しました。
お互いの顔を見つめて19才の青春の面影を探しました。



木村宣彰先生ご退職記念祝賀会 (2010.4.17)
尋源講堂で「仏教学徒四十八年-仏教は分かるのか?-」と題するご講演を聴き、京都ホテルオークラで祝賀会を開催しました。



洗心四八会 木村先生退職祝賀会 (2010.4.24~25)
五年ぶりに集まりました。寮監、寮生の間は段々とせまくなり、写真からは区別できないようになってきました。いつか追い抜けど?!

文栄堂
(大谷大学 学内書店)
〒604-8501 京都市中京区寺町通三条上る
電話 075-223147112
FAX 075-222315243
Email buneidou@pf.so-net.ac.jp

寺川俊昭選集 全11巻
寺川俊昭選集刊行会編 各巻定価 五、五〇〇円
第一巻 清沢満之論 第二巻 歎異抄論
第三巻 教行信証論Ⅰ 第四巻 教行信証論Ⅱ
第五巻 教行信証論Ⅲ 第六巻 親鸞論Ⅰ
第七巻 親鸞論Ⅱ 第八巻 親鸞論Ⅲ
第九巻 僧伽論・蓮如論 第十巻 近代教学論
第十一巻 雑誌『親鸞教学』掲載論文集

四十八願概説
一楽真著 定価 二、九四〇円
—法藏菩薩の願いに聞く—

『浄土論註』の思想究明
延塚知道 著 定価 四、〇〇〇円
—親鸞の視点から—

聞
安富信哉 著 定価 二、六二五円
—私の真宗学—

初期唯識思想の研究
兵藤一夫 著 定価 九、九七五円
—唯識無境と三性説—

いのち みなもと
「生命の玄」

食事を大切にする。
食事を大切に考えて作る。
食事する人を大切に思って作る。
それが典座の精神、私たちの仕事です。

〒612-8415 京都市伏見区竹田中島町39-2
TEL 075-643-5700 FAX 075-643-5698
URL : <http://www.tenzo.co.jp>
※いつもご利用賜りまして誠にありがとうございます。平成7年より
大谷大学学生食堂とBig Valley Cafeを運営させて頂いております。

HAPPY COOK



2003年卒業 大内ゼミ クラス会 (2010.5.2)
三十歳を迎える節目の年に、恩師や同期の仲間と再会でき、とても良い刺激になりました。皆さんありがとうございました。



第8回大谷大学33(昭和33年入学)同期会 富山県集会 (2010.5.11 ~ 13)
雨のため立山雪の大谷は駄目だったが、富山めぐりの二泊三日、懐かしい友たちとの語らいは尽きなかった。来年は鳥根県集会に決定。



宮崎ゼミ16期生 (2007年度史学科卒業) 同窓会 (2010.5.29 ~ 30)
卒業後、毎年恒例の同期会も三回目を迎えました。今年は、天下の険、箱根に行って参りました。来年はどこに行きましようか？



昭和47年度 大谷大学洗心学寮入寮生同期会 (2010.5.12)
2010年5月12日(水)午後6時から、昭和47年度洗心学寮入寮生同期会を料亭「左阿彌」で木村先生を囲んで開催しました。



小島の草庵跡

一楽真教授と巡る **2011年2月21日(月)~23日(水)** 東京駅集合・解散
「関東御旧跡研修旅行」 旅行代金 **¥59,000**

2月21日(月)12:00 東京駅出発→浅草報恩寺→常磐道→西念寺→ホテル
2月22日(火)下妻小島の草庵跡→八千代 弘徳寺→石下 東弘寺→如来寺→ホテル
2月23日(水)二宮 専修寺→稲田の西念寺→16:00 東京駅解散

※尋源舎は大谷大学同窓会が設立母体となって活動しているNPO法人です。
※宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の年に関東御旧跡を大谷大学の一楽教授と研修に参りたいとNPO法人尋源舎が企画しました。
※研修旅行のコースにつきましては変更されることがありますのでご了承ください。
※旅行申込み・お問合せ:観光庁長官登録 旅行業第347号(第1種)

アショカツアーズ(株)ビーエス観光
〒530-6105 大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル5F
TEL:06-6444-2225 FAX:06-6444-2230 担当:道家義幸



鍵主先生の喜寿を祝う会 (2010.6.5)
全国各地より、同人、門下生が集りました。最初に記念写真を撮った為、遅れた方は
枠での登場となりました。決して物故者ではありません。念のため。

第39回大谷大学体育会ソフトテニス部OB会
(2010.6.27)
現役3名、OB 20名でテニスを楽しみ、親睦
を深めました。第41回では、記念パーティを
予定していますので、是非御参加下さい。



第34回浄眼洞(山田亮賢先生門下生の会)研修会(2010.6.5)
今年度は、同人鍵主良敬先生の喜寿を祝う会として、鍵主ゼミ卒業生
の方々と協同で開催しました。とても感慨深い会になりました。



児童文化研究会(1979～1986年卒業)OB・OG会(2010.7.3)
卒業して30年、多くの仲間の参加を得て懐かしいひとときを過ごすことができ
ました。



大谷大学空手道部創部55周年記念懇親会(2010.6.11)
創部55周年を迎え、京都ホテルオークラにて物故者追弔会、OB総会、現役学
生を交えた懇親会を開催しました。

東京書籍 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 TEL:03-5390-7531 FAX:03-5390-7538
東京書籍ホームページ <http://www.tokyo-shoseki.co.jp>

仏教語辞典の決定版に待望の普及版が登場!

広説 佛教語大辞典

縮刷版 全2巻 中村 元 著

中村元博士の五十年を超える営みを集大成した「広説佛教語大辞典」(二〇〇一年刊)全四巻の内
容をそのまま、A5判全二巻に縮小。類書を遙かに超える普通名詞の仏教語約五三〇〇語を取録。

刊行記念特別定価
26,250円
呈内容見本



大谷大学写真部（1989～1997年卒業）OB・OG会
（2010.7.17）
全国各地から三十数人が集まり楽しく懇親しました。卒業
以来約十数年の時を懐かしみ、次回の再会を約束しました。



第35回大谷大学バスケットボール部OB・OG会（2010.7.31）
7月31日（土）に、第35回OB・OG会を開催しました。大会・総会のあとは「天寅」
にて懇親会を行いました。



大谷大学自動二輪同好会第9回OB会（2010.7.24）
大谷大学を去り早5年。いつまでも若者と言われ続けたOBの人も、ふと
振り返ったら今年30歳です。これからも張り切っていきましょう♪



浄影会（2010.8.7）
美味しい料理とお酒を頂きながら、古田先生の「場のもつ力」
のお話を拝聴しました。古田先生からパワーを頂いて帰宅と
なりました。



道交会 総会（2010.7.31）
廣川彰恩名誉会長のご自坊「高念寺」にて開催いたしました。大先輩から学生に至るまで、
多くのご縁を感じました。

『無盡燈』への 広告掲載募集！

会報『無盡燈』への広告掲載を
募集しています。

同窓生の皆さまが、現在お勤め
の企業広告や名刺広告など、同窓
の皆さまのご協力・ご支援をお願
い申し上げます。

広告掲載料金・申し込み方法は
次のとおりです。

- ・全二段（タテ六cm×ヨコ一八cm）
一〇〇,〇〇〇円
- ・1/2段（タテ六cm×ヨコ八・九cm）
五〇,〇〇〇円
- ・1/4段（タテ六cm×ヨコ四・四cm）
二五,〇〇〇円

お申し込み・お問い合わせは、
電話、FAXまたはEメールで
「大谷大学同窓会本部」までお申
し出ください。

TEL 〇七五-四一-八二二四
FAX 〇七五-四一-八一五七
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

通信

「人と人がつながる大地へ」 小笠原 宣

(一九七五年文学部・真宗学科卒業)

私が初個展(一九七四年)を開いたのは、大谷大学四回生の秋でした。当時、名ばかりの寺川ゼミ生で、絵ばかり描いていた私の実質「下村ゼミ」での「卒論」でした。今回の個展、初個展から重ね重ねて幾十回。遠く離れたバルト三国のリトアニアでご縁を頂きました。

杉原千畝(すぎはらちうね、一九〇〇〜一九八六年)は、いわゆる『命のビザ』をユダヤ人達に発給した衆知の人物ですが、その杉原千畝の偉業を顕彰するために、杉原千畝記念館(元日本領事館)がリトアニアの旧首都カウスに開設されて、今年(二〇一〇年)で十周年を迎えます。これを受け、日本大使館主催の年間記念事業が催され、その最初の事業として私の個展を企画して頂くことになりました。「あなたも、杉原千畝と同じ岐阜県出身



駐リトアニア明石美代子大使(左)と共に

でしょう。杉原つながりで行きましょ。岐阜にも杉原千畝記念館が開設されていることですし。今年がチャンスです！」

(駐リトアニア明石美代子日本大使)その後、会場や協力者探しに、明石大使自ら奔走して頂き、「人と人がつながる大地へ」と題した私のリトアニアでの個展は無事初日を迎えられました。そのオープニングレセプションの折り、「あの戦時下に、杉原のような勇氣ある決断が六千人の命を救った。これは宇宙を救ったことに等しい！」と。「一人の命を救えば世界を救ったこと。だから六千人も救えば宇宙を……と言うことだ」そうです。

現在も尚、世界の各地で続く戦闘に、誰もが「無関係」と言い切れない思いを共有したかのような一言でした。

ちょうど、私の父親が大谷大学時代、学徒動員で本館の廊下には、軍靴の音が響いていたそうです。我が大谷大学にもそんな時代があったのです。

現在、当寺に『無盡燈』をお送り頂く同窓生は五名(私・妻・長男とその妻・次男)を数えます。阿弥陀仏の教えの光が平和な世界で確かに受け継がれることを願って止みません。

(岐阜県・真宗大谷派上宮寺住職・画家)

ご結婚 おめでとございます

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申あげます。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)

※同窓会本部掌握分



- 伊奈 潔(二〇〇五修) ● 辻 有希子
- 原田 明浩 ● 千谷 敦子(二〇〇三修)
- 櫻井 智行(二〇〇九修) ● 大久保真実
- 筑田 一毅(二〇〇六修) ● 児島友明美(二〇〇七修)
- 渡邊 弘宣(二〇〇七修) ● 上条 央子
- 石原健一朗(二〇〇七修) ● 高倉 麻里
- 堤 喜広 ● 田川 恵美(二〇〇六修)

※大谷大学専修講堂で仏前結婚式をお受けしています。お問い合わせは、総務課(☎〇七五-四二-一八二六)まで

敬弔

ご生前のご功勞を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)

※同窓会本部掌握分

- 江崎 有聞 大学部(一九三九) 二〇〇九・七・八
- 勝山 俊 大学部(一九五三) 二〇〇九・八・二
- 佐々木 博 大専門(一九四三) 二〇〇九・一〇・六
- 伊勢上泰史 大学部(一九五三) 二〇〇九・一〇・二〇
- 板倉 隆弘 文学部(一九六〇) 二〇〇九・一一・五

窓

同

「人と人との関わり合いの大切さ」 福代 亮樹

(二〇〇九年文学部・仏教学科卒業)

大谷大学に入学してからの四年間、一番なにを学んだのか思い返してみる。もちろん、それぞれの授業で請うた教えは欠かせないもののだが、なんというか今生きていくなかで一番ためになっていることがある。それは「人と人との関わり合いの大切さ」である。

入学した当初、私はまったく人とのコミュニケーションのとり方が分からなかった。というより、自分の価値観を分かちあえる仲間なんていないと思込んでいた。サークルに入ろうと色々見学してみたものの、結局最初の一步を踏み出せず大学デビューを失敗してしまっただ。

その頃の私は何をしていたのかというと、中学、高校時代から続けてきた、サックスという楽器の練習をしていた。高校生の頃からサックスの先生について、音楽の世界で少しは有名な人になりたいと夢を抱いていた。

大学デビューを失敗した理由の一つにこれがあげられるのだが、人とは違うことに取り組ん



でいる自分を凄いなだと思いついて、変なプライドが行く先を邪魔していたのだ。もちろん周りから人が寄ってくるはずもない。一回生から二回生の前期までは、ずっとこのような調子だった。

ある日、同じ学科の友達のをみて、「あれ、なんでこの人はこんなにたくさん友達がいるんや？」校内を歩けば友達、先輩、後輩達と笑顔で挨拶し合い、もの凄く楽しそう。そんな友達の様子を見て大学生らしさ、学生の楽しさみについて何だ？と考え直すようになる。苦心惨憺して出た答えが「人と人との関わり合いの大切さ」だった。それからという日々、人格が変わったかのように変なプライドなんて捨てて、毎日笑顔で積極的に学内の人たちと関わり合った。するとたくさん友達ができた。日々のちよつとしたことでも話し合える仲間がいることがこんなに楽しく幸せなことなのだ、ということ初めてここで学んだ。そして、その仲間とともに念願だった音楽のサークルを立ち上げることもできたのだ。卒業後の二〇〇九年十月、音楽のなかでもジャズというジャンルでのコンテスト「神戸ネクストジャズコンペティション」で優勝を頂くことができた。「人間が大好きです」のスローガンを掲げている大谷大学だからこそ、私は変わったのかも知れない。

(サクソフォン奏者)

*ブログ <http://ameblo.jp/sax-ryojiu-f/>

水澤 孝信	短期(二五七)	二〇〇九・二・九
西川 義恒	文学部(二五二)	二〇〇九・三・二
藤 享祐	文学部(二六二)	二〇〇九・三・二
真溪 利生	文学部(二六二)	二〇〇九・三・二
石川 涉	文学部(二四六)	二〇〇九・三・三
安富 正順	文学部(二四四)	二〇〇九・三・四
武田 賢寿	文学部(二四四)	二〇〇九・三・二
加賀 心行	文学部(二五九)	二〇〇九・三・九
浅野 素信	文学部(二五五)	二〇〇九・一・三
海老海信行	文学部(二五九)	二〇〇九・一・二
二見 恵雄	文学部(二四四)	二〇〇九・一・二
秋月 勝友	文学部(二四四)	二〇〇九・一・二
水口 千芳	文学部(二四三)	二〇〇九・一・二
酒井 恵雲	文学部(二四二)	二〇〇九・一・四
金子 良慧	文学部(二五八)	二〇〇九・一・八
有馬 鴻龍	文学部(二五〇)	二〇〇九・一・三
佐々木現順	文学部(二五八)	二〇〇九・一・三
佐々木映正	文学部(二五八)	二〇〇九・一・一
武宮 真哉	文学部(二五九)	二〇〇九・二・九
百済 泰尚	文学部(二四八)	二〇〇九・二・八
藤本 太一	文学部(二五八)	二〇〇九・二・四
光内 大真	文学部(二四九)	二〇〇九・三・一
佐々木令章	文学部(二五七)	二〇〇九・三・二
友田 節彦	文学部(二四四)	二〇〇九・三・五
上野 徳慧	文学部(二六八)	二〇〇九・三・七
結城 純性	文学部(二七八)	二〇〇九・三・三
横川 隆正	文学部(二五九)	二〇〇九・三・五
村田 隆美	文学部(二八六)	二〇〇九・三・三
釜田 文秀	文学部(二四四)	二〇〇九・四・一
安藤 智信	文学部(二六四)	二〇〇九・四・六
一色 宗行	文学部(二五五)	二〇〇九・四・三
金田 啓子	文学部(二七二)	二〇〇九・五・五
井関 浄	文学部(二六二)	二〇〇九・六・七
出雲路善嗣	文学部(二四九)	二〇〇九・六・八
安富 良英	文学部(二五七)	二〇〇九・六・三
藤野 護	文学部(二六〇)	二〇〇九・七・四
関野 睦	文学部(二五九)	二〇〇九・七・二

「変身と表現」

シエイクスピアによる喜劇『真夏の夜の夢』の中、森で劇を練習する役者の一人、機屋のボトムがロバのものに変わるといふ事件がおきる。これは妖精の女王が目覚めたとき、最初に見る珍妙で醜いボトムに恋するよう、妖精バックが仕掛けた意地悪な魔法のいたずらだった。劇中劇を練習する仲間の前にロバ頭のボトムが現われると、仲間たちは恐れをなして逃げ出し、その内の一人は「ああボトム、お前は変わってしまっただけだ。」と言ひ、もう一人は「お前はすっかり化けてしまっただけだ。」と言った。

ここで「化ける」と訳された元の英単語はtranslateだが、現代英語なら、translateよりは、恐らくtransformの方がより自然に聞こえるだろう。translateは「変換する」という意味がある。transformには「越える」という意味がある。translateは「移す」「変える」という意味から「置き換える」や、現代語で一番使われている意味の「訳する」に当たり、transformは「越えて形を作る」から「変形」「変身」に当たる。しかしながら、変身したボトムをあらわす際にシエイクスピアが用いた「translate」という言葉は、不思議に適切な用語と私には感じられる。ある言語から他の言語に翻

訳するとき、言葉は変わるが意味は残る。それと似て、ボトムは変身したにもかかわらず、相変わらず以前のボトムのままであり、魔法が解けて元の姿に戻っても自分が自分であることを疑わず、ただ記憶を不審に感じ、夢のような事実か事実のような夢か判別できないだけである。

ボトムは人間の知恵では説明できない夢を見たと言ひ、「目では聞こえず、耳では見えず、手が味わったこともなく、舌も考えず、心でも口にできぬものであったぞ、我が夢は。」と、感覚の関連性を混乱させるほど表現し難いものだったと語るが、直後にその不可能を乗り越える方法を思いつく。それは、その経験を詩の形に置き換えるというものであった。

詩の技法の一つである隠喩法は『広辞苑』によると「ある物を別の物にたとえる語法」や「複数の物を内的・外的属性の類似によって同一化する技法」であり、すなわち全く別である二つのものの関連性を見つけ、それを使って両者を越える次元を生み出すことができる。その意味で、詩の世界は現実を越えた変形を生かし、感情をことばに置き換え、経験を訳すものといえる。ボトムの変身体験の二面性を表すのに、詩は最も適切な表現方法といえよう。

大谷大学教授・英米文化

Monica A. Bethe

表紙絵

「花もてゆく」

45.5 × 33.5 cm 二〇〇九年作

蓮は仏像が生まれる以前、釈尊の誕生の象徴としてインドでは数多く浮彫りされてきました。私はずっとインド細密画を調査、研究してきましたが、細密画の描かれていた場所ではジャヤスタン州のフンディ城下の湖面を覆う蓮や、ヒマラヤ丘陵地帯の辺鄙で荒廃したパソリ城下の蓮池が目についでいます。パソリでは蓮華を写生するのでと欲しているのを感じた村の青年が池に入り、水蛇が泳いでいる中から一枝取ってくれた思い出があります。私には夏の花といえば蓮が一番に浮かんできます。毎年観運していても、どれ一つ同じ花はなく、その美しさはいつも新鮮です。古代蓮や白蓮に少しピンクが入っただけの蓮華は特に気品があるように思い、小ぶりで八重の中国蓮の系統はあまり美しいと感じないのは私だけでしょうか。蓮は二日間咲き三日目には生気なく、そして散ってゆきます。立華は仏前を莊嚴（しょうごん）するものとして生まれました。華道「池坊」も六角堂頂法寺の住職として本尊の観音様を莊嚴する花として生まれました。どんなに美しい花もまもなく散り、枯れていくという仏教の説く無常を感得するために立華されます。そういう意味で模造花で莊嚴することは大きな間違いです。蓮は水揚げが悪く蕾を生けても花器の中で開花することはありません。そのためタイなど東南アジアの仏教国では蓮の蕾の花弁を人為的に開いて開花したように見せ、寺院の門前や市場で売られています。山のように盛られたそのような蓮華を見ると心がときめきます。インドでは形の良い、蓮や睡蓮を用い、香りの良さでジャスマインの花輪で供華します。日本では仏教儀礼の折に紙でつくった蓮で散華をしますが、明治以前に紙でつくられた散華は見ることがありません。いつか季節しか開花することのない日本では、常緑の椿の葉が蓮の花びらの形に似ていてよく散華に使われていました。東大寺二月堂のお水取りの際に紅白の紙でつくった椿を供えるのも椿の葉との関連があります。「花もてゆく」仏への捧華、人への供養のような気持ちで描きました。

畠中光享（一九七〇年文学部卒業）

大谷大学非常勤講師
日本画家

2010年9月17日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、壁をば一つの燈をもって百千の燈をともしようものなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。